

第7回専門部会 議事録（人カテゴリー）

平成28年3月17日（木）18時30分～
登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

- ◆出席委員：斎藤 正史 委員
- 垣内 登紀子 委員
- 伊奈 綾 委員
- 二瓶 秀幸 委員
- 辻 勲 委員
- 計5名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
(1) 各専門部会における具 体的事業の協議	事務局	ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第7回専門部会を開催いたします。
	委員	登別の自然・人を見直して活用すれば良いのではないか。
	委員	高齢者が持つ陶芸などの技術を、子供や観光客に教えてあげられる体験型のイベントを行う。
	委員	市内の中心的な距離に位置するアーニスを活用し、それぞれの地域の特性を活かすことで、ハコモノを大々的に建てずに魅力の向上に繋がる。
	委員	また「人」をキーワードとしたとき、中心になるのは「若者」だと思う
	委員	登別では、個々の若者が頑張っているが、どの会議に行っても同じような構成で、20～30歳代の若者はそこにはいないことが多い。
	委員	人材の確保難や人口減少による経済規模の縮小を解決することで経済活性化に繋がる。
	委員	登別に移住して市内中小企業に就職してくれる若年者に対して市民税を無料にするなど大胆な施策も必要になると思う。
	委員	住民参加型のマップや情報誌を作成することを起点として、公募で人を集めて設けたNPO法人が主体となり、様々な展開を行う。
	委員	NPO法人を周囲が育てあげ、最終的に目指す「交流の拠点」の運営主体となるなど、段階を踏んだ取り組みを考える。
	委員	実施主体がやはり問題になると思う。行政がやるのかそれともNPOを立ち上げる意見もあるが誰が主体となりやるのかが問題になる。
	委員	運営主体が決まっても、人材の確保が難しいと思う。なかなか集まらないのではないか。
	事務局	本日はこれで終了します。お疲れ様でした。